【静岡県】

静岡県立三島南高等学校

ＪＲＣ部

高校生ボランティア・アワード2023

「人のために役立つことと自分の成長につながること」

活動概要

静岡県立三島南高校ＪＲＣ部は、主に３つの活動に力を入れています。

①手話活動（右写真の１段目）
部活動統合前を含めて５年間、継続して「静岡県高等学校総合文化祭」の来賓（静岡県教育長と静岡県高等学校文化連盟会長）挨拶の手話通訳をステージで担当してきました。同じ言語でも、表情や仕草を工夫するだけで、伝えたい言葉がより正しく通じることに感動をしました。
②国際交流（右写真の２段目）
日本赤十字社本社の「国際交流事業」に静岡県代表として出場をし、気候変動について海外の人と意見交換をしました。現地の人からの生の声や現状を聞けることは貴重な体験であり、環境汚染に関する深刻さを痛感しました。
③救急法（右写真の３段目）
日本赤十字社静岡県支部が主催する「赤十字救急法競技会」に参加しています。そして、昨年度の大会では総合準優勝という結果を残すことができました。正確さ・速さ・綺麗さといった救急措置の三拍子を極め、１人でも多くの人の命を救うことに繋げていきたいと考えています。

この他にも、部員全員で以下のような活動に取り組んできました。
【人道支援】
④「ウクライナ人道危機救援金」（日本赤十字社）「ＦＮＳチャリティーキャンペーン」（テレビ静岡）熱海の土砂災害の義援金募金（本校オリジナル）「赤い羽根共同募金」（三島市）「海外たすけあい募金」（日本赤十字社静岡県支部）など。
【啓発活動】
⑤「新型コロナウイルス感染症」に関する啓発活動（令和２年度から計６回）
部員たちでキャッチコピーを考え、啓発グッズを作成し、市民に配布等をしました。
令和元年　①「NO！差別～本当に悪いのはだれ？」（うちわ）
②「手洗い・うがい・消毒　～　さよならウイルス」（カイロ）
令和２年　③「みんなで創ろう！コロナ大逆転物語」（ファイル）
④「継続は力なり～一緒に感染対策しませんか？」（マスク）
令和４年　⑤「築け我らの脱コロナ時代」（マスク）
⑥「ウエットティッシュでウイルスバイバイ」（ウエットティッシュ）
【地域交流】
⑥大場地区の子ども交流ボランティア、大場幼稚園との交流、函南町図書館での子どもへ英語本の読み聞かせなど。
【その他の赤十字の活動】
⑦「青少年赤十字スタディー・プログラム」（静岡県代表）「青少年赤十字創設100周年記念静岡県大会」（司会担当）メンバー研修会（日本赤十字社静岡県支部）など。

今後も、子ども食堂など、地域に貢献できるような活動に協力していきたいです。

「高校生の私たちだからこそできること」

活動の目的・志など

①手話活動
聴覚障がいのある方々の視覚言語について理解し、障がいを持った方ともコミュニケーションが取れるようになることを意識して、活動しています。また、静岡県の総合文化祭という大きな舞台で手話通訳をすることで、手話をたくさんの人に知ってもらいたい、という目的もあります。
②国際交流
海外の方と（オンラインで）対話することで視野を広げ、なおかつ、現在の世界の状況を正確に知ることを目的に、活動に従事しています。世界の動きを正確に知ることで、私たちがどのようなことをすればいいのかといった解決策を考えることができます。
③救急法
心肺停止になった状態や出血が多い怪我に直面した際、救急車や助けが来るまでの間、私たちが正しい応急手当をすることが必要となります。「救急法競技会」に参加することで、三角巾による傷の手当やAEDの使い方を学び、災害時に怪我をされた方などを正しく手当できるようになりたいと考えています。
もし自分たちの近くに応急手当が必要な方がいた場合、速やかかつ正確に手当ができるようにしたいと思います。
④⑤募金・啓発活動
募金活動は、子どもたち・高齢者・障がい者だけでなく、世界各地の紛争・災害や病気などにより苦しんでいる人々への福祉活動や災害時支援に使うお金を集めるため、行っています。
また、啓発活動は、新型コロナウイルス感染症対策を広めつつ、コロナへの正しい知識を持ってもらうことを目的として活動してきました。
⑥地域交流
自分たちが住んでいる地域について、よく理解しておくことが大切だと思います。もし災害が起きた時に、助け合いのための声かけが効率良く行えるからです。私たち学生の力で、地域の活性化を目指していきたいと考えています。
⑦ＪＲＣ活動
ＪＲＣメンバーとしての自覚を持ち、意欲的に活動しています。

「気づき・考え・実行する」

令和４年度静岡県高等学校総合文化祭で来賓挨拶を手話通訳　グランシップにて

赤十字国際交流（日赤本社）　静岡県代表

第10回赤十字救急法競技会（日赤静岡県支部）　総合準優勝

高校生メンバー研修（日赤静岡県支部）　沼津海岸清掃

児童への英語の本の読み聞かせ　函南町立図書館にて

活動の詳細（実施内容/成果・実績など）

コロナ感染防止のための啓発活動　三島駅南口にて

各種募金活動～ウクライナ人道危機救援金（伊豆箱根鉄道三島駅）とFNS募金（文化祭）

青少年赤十字スタディー・プログラム（日赤本社）　静岡県代表

「実現できることを増やしていく」　今後の展望・夢など

①今までの活動を継続
これまでの活動を継続するにあたり、誰のために何ができるのかしっかりと考え、自分から率先的に行動に移せるようにしていきたいと思います。
また、既存の活動に加え、他にも多様な活動に積極的に参加をしていく予定です。
②手話活動の活性化
日常会話や簡単な歌を、手話を使って自然に話せるようになりたいと思います。私たちが健常者に対しての広告塔となり、たくさんの人に手話への興味を持ってもらうきっかけを作っていきたいです。
③国際交流
気候変動や貧困など、世界の様々な問題について、たくさんの人々と意見を共有し、多くの人に発信していきたいと考えています。
今は、コロナ禍でオンラインという形式での対面になっていますが、実際に対面し交流ができたらいいなと願ってます。
④救急法
救急法の正確さと速さ、綺麗さを極め、10月に行われる次の競技会では、優勝することを目標としています。そして、救急法を広め、応急手当ができる人を増やしていきたいと考えています。緊急時に、率先して人の助けとなり、一人でも多くの命を救いたいと思います。
⑤地域交流の活性化
幼稚園へのボランティアとして、子どもたちと関わるだけではなく、大人も子供も楽しめるようなイベントを運営してみたいと、活動を通して強く感じました。地域復興・地域活性化を目指し、地域のイベントにもっと参加し、ボランティアとして手伝っていきたいと思います。
地域の交流を活性化し、住民が安心して生活できるような地域を創っていきたいです。
⑥子ども食堂
子どもたちと積極的にコミュニケーションを取り、この場所から地域交流を活発化したいと考えています。食事を通して会話する楽しさを味わい、アットホームのような気分になる空間を作ってみたいです。

活動団体プロフィール

静岡県立三島南高校ＪＲＣ部は、本校の文化部の再編成により、旧ボランティア部と旧英語部が統合し、一昨年度新たに誕生した部活動です。
赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」に基づき、日本赤十字社静岡県支部と連携を図りながら、様々なボランティア活動に取り組んでいます。
今年度の部員数は、２年生18名・１年生８名の計26名です。
今後は、9月に行われる「静岡県高等学校総合文化祭」における来賓挨拶を手話通訳するための練習や、10月の「赤十字救急法競技会」の練習、いじめや差別の撲滅や平和に関する啓発活動、各種募金、保育園との交流や社会福祉協議会との連携に取り組んでいく予定です。